

平成29年度  
地球環境『自然学』講座  
第15回

テーマ  
「都市における暮らしと  
グリーンコンシューマー」

講師  
認定NPO法人・環境市民副代表理事  
下村 委津子 先生

平成29年11月25日  
認定NPO法人・シニア自然大学校

## 講師プロフィール

### 下村 委津子（しもむら しずこ）



#### 略歴

1961年 京都市生まれ フリーランスアナウンサー、eco パーソナリティ  
ESD-J（持続可能な開発のための教育推進）理事、FEE Japan 理事、市民エネルギー京都理事、  
アントレプレナーシップ開発センター理事、京都市ごみ減量推進会議理事

環境市民では、エコツアー研究会、エコライフスタイル提案本づくり、環境首都コンテスト全国ネットワークが実施した「日本の環境首都コンテスト」の活動などに参加してきました。現在は、自治体の環境政策を応援しすすめる「自治体政策評価オリンピック」や、持続可能な消費プロジェクトで環境を大切にしたい商品やエシカルな商品にどんなものがあるのか、どこで買えるのかがわかり、グリーン&エシカルな商品を見つけた人が投稿もできるウェブサイト「ぐりちょ（Green&Ethical）」や、企業のエシカル度を調査する「企業のエシカル通信簿」など、新たな活動を展開しています。他にも、ESD（持続可能な開発のための教育）や環境教育の国際認証グリーンフラッグ取得のためのエコスクールプログラム、環境市民のパートナーシップ事業にも関わっています。

「年齢性別を問わず、生命あるものすべての存在が価値あるものとして大切にされ、安全に安心して生き活きと暮らせる環境を大切にしたいまち」そんなまちの誕生を目指しています。

#### ●私の横顔

人と出会い話を聞くのが好きになったのは、幼い頃商売人の家で育ったせいかもしれません。配達車の助手席が私の指定席、行く先々で多くの人たちと出会いました。3軒隣の耳鼻科の待合室でお年寄りと話し込み、近所の小学校にも無断で入り込む、当時京都のまちなかを走っていた路面電車で隣の人と話しが弾み降りるのを拒否…と、数々のエピソードが残っています。その素質が開花したのか？フリーランスアナウンサーの道へと進みました。

今はメディアと環境NGOの双方を知る者として、より正確な情報と真意をわかりやすく多くの人に伝えられる役割を担えればと思っています。50の声を聞く少し前から始めたスキューバダイビングはまもなく200本。命あふれる海の中でその尊さを体験しています。

現在、人間3人と猫4匹との暮らしを楽しんでいます。

#### ●著書

『環境市民の遊び方暮らし方』（共著）

『日本の環境首都コンテスト 地域から日本を変える7つの提案』（部分執筆）

『やさしい環境教育』（部分執筆）

『女性が拓くいのちの海と生きる未来』（編著者）

## 講演要旨

私たちの住む地球には多くの命の営みがあります。人間もまたその命の営みのひとつであり、他の生きものたちによってたくさんの恩恵を受けています。では、私たち人間は他の生きものに感謝される何ができているのでしょうか。

認定 NPO 法人環境市民のビジョンは、自然も生きものも人も、命あるものとして大切にされる世界を目指しています。

### <<環境市民のビジョン（めざすもの）>>

「持続可能で豊かな社会・生活」

海は青く澄み、川には魚が泳ぎまわり、  
山にもまちにも緑があふれ、夜空には星が美しくまたたき、  
生きものたちは絶滅の危機にさらされることなく生を尊ばれ、  
人々は他者と競い合うことなく共に助け合い、  
金儲けだけの仕事に追われることなく、  
子どもたちは未来に目を輝かせ、  
齢を重ねた老人たちはその知恵と経験を敬われ、  
誰もが社会の主人公として輝き、  
宗教や肌の色の違いで殺し合うこともなく、  
異なる文化を認め合い、飢えも戦争も差別もない……世界。

残念ながら、現代はこれとはほど遠い社会・生活です。しかし、私たち市民の手で、いつかこんな世界を実現したいと考えています。

### ■グリーンコンシューマー活動（環境を大切に考えた消費者活動）

環境市民のビジョンを実現するための一つの取り組みが、グリーンコンシューマー活動です。発足した1992年当初から取り組んできました。もともとイギリスで始まった活動がアメリカの消費者運動で盛り上がり、世界で認識される取り組みとなりました。その活動を日本で初めて形にしたのです。当初は小さな団体が取り組む小さな活動でしたが、やがて自治体や消費者団体が関心をもち、徐々に広がり今では中学校の教科書にもフェアトレードなどの言葉とともに載っています。

グリーンコンシューマー活動は、消費者が主体者となり、自らで買い物を変えることでメーカーや販売店に影響を及ぼし社会を変えて行くことができます。環境を大切に考えた消費者が、環境や健康に良い商品を購入します。環境によい商品が売ればスーパーなどの小

売店で仕入れの数や種類にも変化がおきるでしょう。そうすると、売れる商品ならとメーカーはさらにつくるようになり、販売量が増えることで価格も安定します。店頭が目立った棚に並べられると、それまで環境にあまり高い関心を持っていなかった人たちの目にも留まるようになり、さらにより循環が生まれます。このような循環の結果、経済もグリーンに変えて行くことができるのです。

## ■ エシカル消費（倫理的消費）

そして今、グリーンコンシューマーに加えてエシカル消費という言葉が聞くようになりました。エシカル消費を日本語に直訳すると倫理的消費となります。どのようなことかという、私たちの暮らしは何かを消費することで成り立っていますが、手元に巡って来る様々な商品の背景に思いを巡らしたことがあるのでしょうか。野菜の産地や栽培方法を気にするのと同じように、例えばチョコレートが、Tシャツが、どこで、どんな人たちによって、どんな労働環境でつくられたのか、ちょっと思いを馳せてみるのが大事です。これまで、デザインや価格、安全、使いやすさなどで商品を選んできた視点に、現地の環境や働く人のこと、公正な対価が支払われているのかなども加えてみましょう。あるいは、生きものの命を粗末にして生まれた製品・商品ではないでしょうか。誰かを不幸にして、命を粗末にしてつくられた製品・商品など誰も望まないはずで。

しかし、私たちの身近なところで倫理的でない、公正でない、社会的に負担をかけるような商品がたくさん売られているのも事実です。だから、私たちは選択しなければなりません。多くの人々が、誰かを不幸にしたり、子や孫が生きる時代を悪くするような商品ではなく、みんなが幸せになれるより良い社会に近づけるような商品を購入すれば、そのような商品をつくる企業も元気になり社会がよい方向に変わって行きます。

## ■ 持続可能な消費と生産

国連の持続可能な開発目標 SDGs の12番目に「つくる責任 つかう責任」という目標があります。これが「持続可能な消費と生産」で、この中にはさらに細かなターゲットといわれる私たちが起こすべき行動が記されています。消費と生産はあらゆるものがかかわってきます。例えば、こどもや孫のため小学校入学のときに学習机を購入しようと考えたとします。まず、素材は何になるのでしょうか。もし木製ならその木はどこから切られたものでしょう？外国産ですか、国内の木ですか？ちゃんと自然を守って管理された森林から切り出されたのでしょうか。製材されて漂白剤にどっぷり浸けられてはいませんでしたか？机になる組み立て段階でホルムアルデヒドなどの薬剤はつかわれていいませんか。どんな人たちがつくったのでしょうか。家具職人さんでしょうか。児童労働はなかったですね。賃金はきちんと支払われているのでしょうか……。書き出すと切りがありませんね。そして、知りたいと思ってもこのような情報はなかなか知ることができにくい社会状況です。だか

ら消費者がそのような情報が必要であることをメーカーに求めていくことが大事です。情報開示されている商品を購入する。消費者への情報提供を大切にしている企業から購入するというこことも大切です。消費者が変われば企業も変わります。

## ■消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク

地球規模の環境破壊、気候変動、人権侵害や社会的な不公正は、私たちの消費と大きくつながっています。そこで、環境市民では全国で関心のある団体に呼びかけて「消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク」を発足させました。「買い物を変えることで、私たちの生活を変え、社会を持続可能に変える」ことを目的に、環境、人権、消費、フェアトレード、動物の福祉（権利）などに取り組む団体が集まり、現在は全国から38団体が参加しています。

主な活動は、次のとおりです。

- (1) エコロジーやエシカルの視点から、企業を選択するための情報を消費者に提供することを目的とした「企業のエシカル通信簿」プロジェクト
- (2) 環境、人権、社会、未来を大切にしたいエシカルな商品や購入場所がわかる情報サイト「ぐりちょ (Green&Ethical Choices)」の運営
- (3) 「持続可能な消費」をテーマにした公開セミナーの全国各地での開催
- (4) ESD (持続可能な開発のための教育) の視点も含めた「持続可能な消費」をテーマとした教材づくり

「ぐりちょ (Green&Ethical Choices)」は、みなさんが見つけたグリーン&エシカルな商品を投稿できるサイトです。みなさんが投稿して下さることで、どんどん情報が充実して、どのようなグリーンでエシカルな商品が近所のどこで購入できるかが簡単にわかるようになります。スマホで、投稿もできて情報を見ることもできます。

今はまだ7カテゴリーのみですが、今年度には20カテゴリー程度に増える予定です。どうか、どんどん活用してみなさんの手で育てて下さい。